



2024 沖縄ろうきん 福祉金融機関の役割

ウェルビーイング

「ともにWell Being」

～ゆめへ 未来へ 私からつなぐ つながる世界へ～



ディスクロージャー誌は
こちらからご覧いただけます。



URL <https://www.okinawa-rokin.or.jp/about/disclosure/>



社会的責任と貢献活動



SDGs達成への貢献

住宅ローンにおける同性パートナーの収入合算



住宅ローン、マンション専用ローンについては、法的な婚姻関係にない同性パートナーの収入を合算し、融資をおこなう日までに融資対象建物への同居確認(住民票の提出(省略不可))ができる場合、かつ返済期間中に安定継続した収入があり、弁済協力が得られると判断できる場合は、連帯保証人または連帯債務者とする取り扱いを可能としています。

教育ローンにおける資金使途対象者の拡大 (法的な婚姻関係にないパートナーの実子や養子)

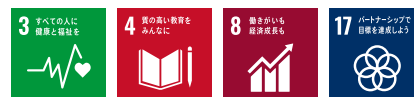


教育ローン、ろうきん教育ローン(カード型)については、申込受付時点で申込人と同居する法的な婚姻関係にないパートナーの養育する実子または養子の教育資金を資金使途対象としています。

同性パートナーの収入合算、LGBTや事実婚カップルの資金使途対象者を拡大したことについてSNSでは好意的な投稿が多数あり関心の高さと必要性を実感しています。



福祉金融機関としての融資制度



融 資 制 度	2023年度利用状況		
	利用件数	利用金額	利用残高
◎ 技能者育成資金融資 経済的な理由により、職業能力開発総合大学校や公共職業能力開発施設の行う職業訓練を受けることが困難な訓練生のうち、能力開発施設の長から推薦のあった方に対して融資することで、訓練生の経済的な負担の軽減を図り、職業訓練の受講を支援するための制度です。2011年5月から国との提携によって取り扱いを開始しました。	9	11,680千円	119,151千円
◎ 求職者支援資金融資 雇用保険を受給できない方で、国が実施する「求職者支援制度」に定める訓練を受講中の場合、給付金では生活費が不足する方に対して必要な資金を融資し、生活の安定をはかりながら再就職を支援する制度で、2011年10月から取り扱いを開始しました。	4	2,200千円	4,287千円
◎ 福祉ローン 医療費、介護費、育児費用、育児・介護休業取得中の生活費、災害復旧に必要な資金としてご利用いただけるローンで2014年1月から取り扱いを開始しました。	31	25,100千円	61,591千円
◎ ろうきん教育ローン奨学金借換専用「kukuru」 日本学生支援機構等の奨学金の借換を専用とした教育ローンで、2018年10月から取り扱いを開始しました。	10	13,800千円	132,538千円
◎ 妊活サポートローン「Hug-Kumi」 「不妊治療を先送りしないため」のひとつの選択肢として、また、「不妊治療費を支払うことによる生活費への不安」に応えるため、2019年5月から取り扱いを開始しました。	11	14,600千円	82,305千円
◎ 自然災害復旧ローン 災害発生時に事象を限定して立ち上げる融資となり、災害救援法の激甚災害の指定を要件としないローンで2019年7月から取り扱いを開始しました。	—	—	—

※融資残高は2023年度末現在の残高を記載しています。



17

パートナーシップで
目標を達成しよう

自然災害に係る取り組み

自然災害により被害を受けられたみなさまに心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い被災地の復興を心からお祈り申し上げます。ろうきんでは、自然災害により被災された方に対して、以下の支援に取り組んでいます。

窓口での支援策

1. 融資関連の特別措置

- (1) 被災された方のろうきんとのお取引先に関するご相談につきましては、お取引先のろうきんへの取次ぎ等、丁寧に対応させていただきます。
- (2) 被災された方の早期の生活安定と災害復旧を目的として、災害救援ローン(無担保)・災害救援住宅ローン(有担保)を取り扱っています。

2. 振込手数料の免除措置

ろうきんの窓口で、会員団体等が開設した義援金振込口座へ送金する際の振込手数料を免除しています。

令和6年能登半島地震に対する義援金の贈呈

令和6年能登半島地震被災者支援のため、琉球新報社へ義援金を30万円贈呈いたしました。義援金は琉球新報社を通じて、日本赤十字社沖縄県支部へ寄託し、被災者の方々の支援に充てられます。

また、ろうきん業態として労使共同で「緊急支援カンパ」を行い、被害等にあつたろうきん業態に働く役員、および被災地域支援団体等へ400,100円を寄附しました。



生活応援運動の取り組み

多重債務対策の取り組み



全国13のろうきんと労金協会は、2007年に「生活運動・多重債務対策本部」を設置しました。その後もろうきん業態における統一施策として、多重債務に関する啓発・救済に関する活動を継続して取り組んでいます。

当金庫においては、高金利の他社カードローンを当金庫カードローンや無担保ローンなどに借り換える取り組みを強化し、可処分所得の向上をはかっています。



金融リテラシー教育の実践



「高金利の危険性」や「身近に潜むマネートラブル」に関する情報を提供し、多重債務に陥らないために、会員職場での研修・学習会の開催、講師派遣等を通じての予防運動を進めています。

また、SDGs目標4「質の高い教育をみんなに」の実現に向けて、児童・生徒・学生に対しても、金融リテラシーを身につけるための金融教育・消費者教育セミナーを実施しました。

当金庫は会員団体および学校教育機関と連携し、金融教育・消費者教育セミナー開催をとおして、福祉金融機関としての役割発揮に向けた取り組みを実施しています。



	小学校	中学校	高校	特別支援学校	会員団体	合計
実施数	4回(4校)	4回(2校)	8回(7校)	1回(1校)	28回(21会員)	45回
参加人数	235人	418人	1,009人	12人	527人	2,201人

社会的責任と貢献活動

地域社会の活性化に関する取り組み（地域と協働した社会貢献活動等）

ろうきん こくみん共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金



「ろうきん こくみん共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金」は、沖縄県内各労働団体および会員団体のみなさまのご協力のもと創設されました。この間、「働く」につながる支援を基本方針とし、子を養育する親には就労・生活支援を、就学生には希望職種(夢)実現に向け受験費用等支援を行ってきました。

当金庫は、基金の安定運営を会員団体・お客さまとともに支え、「共助」の輪を広げ、働く仲間とその大切な子ども達の笑顔につなげていきます。

ゆめ・みらい基金の寄付ありがとうございます。
 コロナで旦那の収入が入り、私も出産、有給が仕事ができなくてや、とおついで、1人2人で子供たちのためにがんばりたいと思いましたが、旦那が体調をくずしてしまい収入がまた入り、1人の病も、あついで家賃もはらえない、ライフラインもすべて止められ、子供たちの好きなものをあげられず、これからな、子供たちに申し訳ないとおもっている時に、NPO・NPOセンターの方たちがゆめ・みらい基金と知りあってくれて、家賃も払ってライフラインもつなげることができました。
 ゆめ・みらい基金、協力してください。の方に感謝してもしきれないです。次は困っている方たちを自分たちが支援できるようにがんばっていきたく思います。ありがとうございます。

この度は「ゆめ・みらい基金」の決定・支援をいただき、心よりお礼申し上げます。
 熊本から母1人、子4人で移住してきましたが、転入にかかる費用が想定していた以上にかかることになり相談させていただきました。まず、このような支援があること(驚き)希望を持つことが出来た。また、どういった支援なのかを子供達にも説明し、今度は困った時にふたたびおにやたらも頑張りたいとお話しました。相談員の方々は自分の事のように親身になり寄り添って下さり、心への支えにもなり大変感謝しております。
 おかげで中学生2人の制服や小学生の道具等全て揃えることが出来ました。
 これから子供達と笑顔いっぱい再スタートし、母にも頑張りたいと思います。

子どもたち(養育世帯)への食糧品・物品支援について



コロナ禍は徐々に落ち着きを見せ始めましたが、物価上昇等が続き、依然として子どもを養育する世帯では家計が逼迫している状況にあります。

「ろうきん こくみん共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金」では、2020年度から引き続き、子ども達(養育世帯)への支援として、各支援機関に対し食糧品・物品支援を行いました。

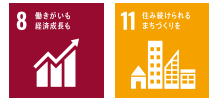
これらの提供品は支援機関を通じ、子ども達(養育世帯)へ届けられました。

- 〔提供品〕 1,981,400円(お米、レトルト食品、生理ナプキン等)
- 〔取組期間〕 2023年9月、12月
- 〔提供先支援機関〕 生活困窮者自立支援事業を中心に13機関
母子生活支援施設を中心に8機関



1 沖縄県 就職・生活支援パーソナルサポートセンター南部	8 那覇市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター	15 浦添市母子生活支援施設 浦和寮
2 沖縄県 就職・生活支援パーソナルサポートセンター中部	9 豊見城市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター	16 那覇市母子生活支援センターさくら
3 沖縄県 就職・生活支援パーソナルサポートセンター北部	10 南城市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター	17 婦人保護施設
4 名護市 暮らしと仕事の応援センターさぼんちゆ	11 糸満市暮らしのサポートセンターきづき	18 NPO 法人ファミリーサポート・愛さん会
5 うるま市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター	12 沖縄県マザーズスクエアゆいほあと	19 にじのしずく
6 沖縄市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター	13 マザーズスクエアゆいほあと・中部	20 石垣市子ども未来局
7 浦添市 自立サポートセンター・てだこ未来	14 マザーズスクエアゆいほあと・北部	21 宮古島市 福祉政策課

企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）を活用したうるま市への寄附について



地域活性化を目的として、うるま市へ企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）を活用し、300万円を寄附いたしました。ろうきんの理念である「働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関」を踏まえ、「商工業や観光関連産業の活性化支援や農水産業の活性化と高度化に向けた取り組みを図る」としている「魅力ある安定した雇用の場を創出する事業」への寄附を指定しています。

今後とも、当金庫は企業版ふるさと納税をはじめとした様々な取り組みを通じ、地域活性化に寄与してまいります。



会員みなさまの“想い”が詰まった寄附金をゆめ・みらい基金へ贈呈しました



県内全12地区のろうきん地区推進委員会、当金庫の会員団体（労働組合、共済会等）、当金庫が三位一体となり、2023年4月から11月にかけて実施した「笑顔であいたい感謝祭2023」（以下、感謝祭という）において、感謝祭アンケートシートの提出1枚につき200円を当金庫が拠出し、社会貢献活動に取り組む団体等へ寄附金を贈呈しました。

働く仲間一人ひとりの“想い”が詰まった寄附金を、沖縄の子ども達への支援として活用いただいています。

〔寄附金額〕

寄附先	寄附金額
ろうきん こくみん共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金	1,100,000円

※感謝祭参加者が10,592名でしたが、今回の取り組みでは寄附金額上限を110万円までとしていましたので、以上の寄附金額となりました。



「生理の貧困」解消に向けた会員団体との協働取り組み



厚生労働省が2022年3月23日付で公表した調査結果では、経済的理由などで生理用品の購入・入手に苦労した経験がある女性について、18歳・19歳が年代別で最も多く、若年層で「生理の貧困」が深刻化している現状が報告されました。そのような現状において、2022年度から継続して、会員団体であり学校現場に専門性を有する沖縄県教職員組合（以下、沖教組という）と労働者福祉事業団体である公益財団法人沖縄県労働者福祉基金協会（以下、沖縄県労福協という）との三者協同で、生理用品の入手に困難を抱える児童・生徒へ「吸水サニタリーショーツ」の無償配布に取り組んでいます。

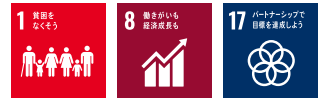
一般的な生理用品（使い捨て）の配布が広がりつつある中で、「吸水サニタリーショーツ」という選択肢を組み合わせることで、生理用品の調達頻度やそれに係る精神的負担、経済的負担の軽減につなげます。また、SDGsの観点からも使い捨て生理用品のゴミ排出削減の一助とし、環境へ配慮した取り組みにしたいと考えています。

- 【取組名称】 沖教組「吸水サニタリーショーツ」無償配布制度
- 【取組期間】 2023年6月1日(木)～2024年3月31日(日)
- 【配布対象】 主に経済的な理由で生理用品の購入が難しいと思われる児童・生徒
※対象者の判断は養護教諭、またはスクールソーシャルワーカーが行います。
- 【配布商品】 イオン・ユニクロ製「吸水サニタリーショーツ」
- 【配布実績】 配布校 県内小中学校132校
(沖教組支部別配付校 国頭支部:21校 中頭支部:30校 那覇支部:29校 島尻支部:23校 宮古支部:14校 八重山支部:15校)
配付枚数 小学生向け560枚/中学生向け230枚 合計790枚



2024年度については、「笑顔であいたい感謝祭2023」における「ゆめ・みらい基金」への寄附金から支出・購入して、協働取り組みを継続します。

子どもたちに文化的・社会的体験を提供する取り組み



会員所属のホテル企業と、子どもたちが、夢や将来のビジョンを持つためにも必要な「文化的体験」および「社会的体験」のコラボレーション企画を実施しました。

体験企画については、(公財)沖縄県労働者福祉基金協会 就労サポートセンターの企画による職業体験プログラムも組み込みました。

〔開催場所〕

開催場所
沖縄ハーバービューホテル (那覇市)
ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城 (那覇市)
ホテル日航アリビラ (読谷村)
ANAインターコンチネンタル万座ビーチリゾート (恩納村)
宮古島東急ホテル&リゾート (宮古島市)
アートホテル石垣島 (石垣島)

〔参加した児童・生徒の延べ人数〕

小学5・6年生	58人	136人
中学3年生	70人	
高校2・3年生	8人	

〔支援金額〕

703,000円

〔体験内容〕 ホテルランチまたはディナーの提供

非日常空間の体験＝自己肯定感を高める。

職業体験

プロの仕事を知る、理解する。新たな視野と選択肢を持ち、自らの可能性を発見する。テーブルマナー習得、ベッドメイキング体験や宴会場セッティング体験など。



沖縄ハーバービューホテル



ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城



ホテル日航アリビラ



ANA インターコンチネンタル万座ビーチリゾート



宮古島東急ホテル&リゾート



アートホテル石垣島

クリスマス食品提供の取り組み



コロナ禍においても、子どもたちが明るく笑顔でクリスマスを過ごせるように願いを込めて、また、少しでも家庭の負担を軽減できるように、ひとり親世帯等に対して、クリスマスの食品提供を行いました。

協力団体を通じて、ひとり親世帯等へ呼びかけを行い、会員所属企業であるイオン琉球株式会社と生活協同組合コープおきなわ、オキコ株式会社、フォーモストブルーシール株式会社の協力のもと取り組みを行いました。

〔提供先〕 ひとり親世帯、困窮状態にある子どものいる世帯、学生等

〔提供数〕 970セット 〔支援金額〕 6,879,449円

〔提供した食品〕 世帯等に対して当金庫で選定した3食品をセット提供しました。

※宮古地区、八重山地区では支援数を増やすため、2食品セット

(アイスクリームケーキ、チキン)を提供。

・ホワイトクリスマスケーキ(生クリームケーキ)

または、チーズケーキかアイスクリームケーキ

・チキン

〔協力団体〕 ・(公財) 沖縄県労働者福祉基金協会

・女性を元気にする会

・NPO法人エンカレッジ

・宮古島市役所 福祉部 福祉政策課

・(一財) 石垣市ひとり親家庭福祉会

・竹富町役場 福祉支援課 子育て支援係

・子どもホッ！とステーション (石垣市)





観光業をつつむ共助の「輪」支援策



長期間コロナ禍の影響を受けたバス会社の一助になればという思いと、子ども達に「笑顔」で楽しんでほしいという思いで、当金庫会員所属企業の保育園・こども園に対し、観光バスの送迎をセットにしたアニメ上映会を提供しました。

支援策については、観光バスの調達に以下の当金庫会員所属企業であるバス会社を利用させていただき、子ども達へツアーを企画・提供しました。

〔協力会員所属企業および協力会員〕

- ・ 沖縄バス株式会社 (沖縄バス労働組合、沖縄バス労働組合共済事業部)
- ・ 株式会社琉球バス交通 (沖交労・琉球バス組合)
- ・ 東陽バス株式会社 (東陽バス労働組合)
- ・ ていーだ観光株式会社 (ていーだ観光労働組合)
- ・ 中部観光バス株式会社 (中部観光バス株式会社労働組合)
- ・ 東運輸株式会社 (東運輸労働組合)
- ・ (株)八千代バス・タクシー (会員外)

〔団体数〕

66団体

〔参加人数〕

2,320人

〔観光バス台数〕

67台



提供：沖縄タイムス社



高校生・大学生に向けた地域活動・社会活動支援 ろうきん・あとっぽプロジェクト

本プロジェクトは、沖縄・地域のために何かしたい高校生・大学生の活動を応援する寄附金となっています。「社会人」より活動資金を得ることが難しい「学生」へ資金支援を行うことで、学生自身が活動を通じて得られる知識や経験の広がり、沖縄の地域活動・社会活動のさらなる活性化を期待します。

(1)対象者	沖縄県内で経済、福祉、環境、文化等の地域活動・社会活動に取り組む高校生、大学生のグループ(2人以上)であること。
(2)助成額	総額100万円、1グループ上限10万円
(3)助成先について	12グループに助成決定(高校生:8校9グループ、大学生:3校3グループ)



読谷高校科学同好会
比謝川の汚染度を調査し、
活用方法について考察



宮古特別支援学校「パニパニ・ズミズミ」
生徒達の作品を展示する美術展を開催



沖縄県立看護大学「ふしやぬふ うぐなり cafe」
高校進学を機に親元を離れた高校生のための交流会を開催

社会的責任と貢献活動



地域社会の活性化に関する取り組み(地域と協同した社会貢献活動等)

ろうきん・わしたシマづくり運動(自動機利用による取り組み)

2014年10月、自動機によるお取り引きに応じて寄付金を積み立て、地域で活動する団体へ寄附することによりその活動を支援する「ろうきん・わしたシマづくり運動」を創設し、会員団体・ご利用者と当金庫が三位一体となった社会貢献活動に取り組んでいます。2023年度は22団体へ総額150万円を寄附しました。



2023年度 新規寄附先団体

	団体名	所在地
1	ボランティア団体ありがとう	うるま市
2	一般社団法人minpi	糸満市
3	山城塾	那覇市
4	大名第二団地『地域の足』 移動支援プロジェクトチーム	那覇市
5	特定非営利活動法人たのしい教育研究所	うるま市
6	高山製作所	那覇市
7	宜野座村子育て支援ていんの会	宜野座村



地区推進委員会のイベント

各会員団体・構成員のみなさまでつくる各地区推進委員会は、暮らしに関するセミナーや学習会、スポーツ交流、社会貢献活動を主催しながら、地域や会員相互間にもろうきんへの「共感の輪」を広げています。



セミナー・学習会



那覇市役所地区推進委員会/
親子マネーセミナー

紙芝居やすごろく等を利用し、楽しみながら学びました。



コザ地区・具志川地区推進委員会/
金融リテラシーセミナー

ZOOMを活用したハイブリッド形式で学習会を開催しました。



北部地区推進委員会/
マネー講座

資産運用体験ゲームで、グループに分かれ積立投資について学びました。

スポーツ交流



全地区推進委員会/
親睦交流グラウンドゴルフ・シニア大会

各地区の予選会を勝ち抜いた猛者たちが熱戦を繰り広げました。



浦添地区推進委員会/
チャリティーボウリング大会

募金は浦添市社会福祉協議会へ贈呈されました。



与那原地区推進委員会/
第6回バレーボール交流大会

与那原町・南風原町・八重瀬町の小学生25チームが熱戦を繰り広げました。

社会貢献活動



県庁地区推進委員会/
沖縄県里親会へ支援

社会へ巣立つ子どもたちへ布団セットを寄贈しました。



宮古地区推進委員会/
トータルビューティー&生活支援等相談会

女性支援のイベントに参加し、金融リテラシーのブースを設けました。



おもろまち地区推進委員会/
泊高校(定時制)へ支援

リクルートウェア等のレンタル衣服を寄贈しました。